

久留米大学医学教育研究センターによる医学教育月例レポートの第2号である。今月は本学の総合試験に出題された必修問題の検討、4年次のCBT成績と国試合格との関連、そして学生の駐輪場に関する要望にどう対処したか、の3点を報告する。

駐輪場の要望に関しては、教育1号館北側の駐輪場が一杯で困るという相談が当センターに寄せられたので、それに答えるべく、周辺の3駐輪場の駐輪数を当センター員で調べ、その結果を基に学生に対処法を考えてもらうことを目的とした。

1. M6 総合試験「必修問題」の解析（概略）

論文化予定のためにここでは概略を記載する。

- (1) 「医師国家試験問題解説」(MEDIC MEDIA)と教務課のデータを利用し、最近4年間の必修問題の成績を比較したところ、M6 総合試験は医師国家試験に比べて平均点が低く、正答率の低い問題が多かったが、平成26年度は平均点が高くなり、正答率の低い問題が少なくなった。
- (2) 必修問題は「医師に必要な基本的診療能力を主題にした問題」であり、医師国家試験の合格基準は絶対評価で「80%以上」である。出題者は内容が平易で正解が明らかな問題を心がけ、試験委員会は昨年度のようにむずかしい問題を出題者に修正させる姿勢が重要であろう。

2. CBT IRT と医師国家試験合格率の相関性（概略）

論文化予定のためにここでは概略を記載する。

- (1) CBT の成績と医師国家試験合格率、個別の医師国家試験の得点について両者に関連性があるかどうかを検討した。
- (2) CBT の個人成績と国家試験の得点の相関性を検討した。
- (3) 個々のIRTと医師国家試験の合否についてロジスティック解析をおこない、国試合否を予測するIRTカットオフラインが得られるかどうかを検討した。

これらの検討から、CBTのIRTから国試合否を予測し、CBTから2年後の医師国家試験までの対策を打ち出すことができるかどうか検討することとした。

3. 学生からの駐輪場拡張要望への対処

(1) 利用率調査(2015年5月)

駐輪場	学生サロンまでの距離	駐輪枠(台)	11日	12日	13日	14日	15日	計	平均駐輪台数(台/日)	平均利用率(%)
			(月)	(火)	(水)	(木)	(金)			
			10:30曇	10:30雨のち曇	10:30晴	10:30曇	11:30晴のち雨			
教育1号館の北側(屋根なし) A	約10m	約196	300	128	308	223	318	1277	255	130.3
基礎2号館の北側(屋根付き) B	約70m	約318	71	53	74	64	69	331	66	20.8
解剖実習室の東側(屋根付き) C	約200m	約185	153	79	198	157	169	756	151	81.7
計		約699	524	260	580	444	556	2364	157	100.2

結果1：教育1号館の北側は屋根がないにも関わらず駐輪のキャパシティ以上の台数で溢れている。

結果2：基礎2号館北側は屋根付きで、かつ車輪固定器具があり、学生サロンまで約70mと近いのに利用率が低い。

(2) 5年生(98人)と6年生(132人)を除く4年生以下の学生(123+128+116+120)=487人がA駐輪場とB駐輪場を利用する可能性が高いと仮定し、これらの学年の全員が駐輪すると仮定した場合。

AおよびBに均等に配車された場合の駐車率(%)	5/11(月)	5/12(火)	5/13(水)	5/14(木)	5/15(金)	想定平均利用率(%)
$(Aの駐車台数+Bの駐車台数)/(196+318) \times 100$	72.1	35.2	74.3	55.8	75.3	62.5%

結果3：上記ふたつの駐輪場が均等に利用された場合、利用率は35%(5月12日)～75%(5月12日)となり余裕がでる。

(3) 1年生(123人)と2年生(128人)と3年生(116人)がB駐輪場に、4年生(120人)がA駐輪場に止めた場合を想定。

駐輪場	距離	駐輪枠(台)	1年生	2年生	3年生	4年生	計	想定平均利用率(%)
教育1号館の北側(屋根なし) A	約10m	196	0	0	0	120	120	61.2
基礎2号館の北側(屋根付き) B	約70m	318	123	128	116	0	367	115.4

結果4：3年生までは基礎2号館北側に、4年生のみが教育1号館北側の屋根なし駐輪場にとめれば、混雑しない。

(4) 1年生～4年生の男女比は350対137人(男性72%、女性28%)であるので、女子学生がA駐輪場、男子学生がB駐輪場に分けることを想定。

駐輪場	距離	駐輪枠 (台)	男子学生	女子学生	想定平均 利用率 (%)
教育1号館の北側(屋根なし) A	約 10m	196	0	137	70
基礎2号館の北側(屋根付き) B	約 70m	318	350	0	110

結果5：人数の少ない女子学生が教育1号館北側に、男子学生が基礎2号館北側にとめるのも、混雑解消に有用。

考察：基礎2号館の駐輪場の利用率が低く、教育1号館北側に集中して駐輪されているのが混雑の原因である。2か所に分散駐輪することが混雑解消に有用であり、その方法は学生の自主的な方針に委ねられるべきだが、学年別、あるいは男女別に駐輪場を分けるなどの工夫は駐輪場の混雑解消に有効であると思われる。

なお、学生さんから出された他の要望（体育館のエアコン設置要望など）に関しても同様の科学的かつ実証的な方法で、大学のしかるべき部署へ要望を出されるよう希望する。

久留米大学医学教育研究センター

神代 龍吉、安達 洋祐、柏木 孝仁、北川 周子